

PV 6mg/kg

CPT-11 150mg/m²

2W1クール

※UGT1A1遺伝子*6、*28
 ダブルヘテロ複合体orいずれかのホモ接合体の場合
 CPT-11 120mg/m²への減量を考慮

NO	薬品名・規格	投与量	投与速度
1	グラニセトロンバッグ 3mg 100ml デキサート 9.9mg		30分
2	生食 100ml ベクティビックス	mg	60分
3	生食 50ml		15分
4	5% Tz 250ml イリノテカン	mg	90分
5	生食 50ml		10分

☆投与後早期(投与中または投与後1-2日目)に発現する腹痛や下痢に対しては、アトロピン0.5-1Aの混注を考慮して下さい。

☆本治療を行う前にUGT1A1遺伝子の検査を実施して下さい。

○Panitumumab治療開始時には保湿剤(ヘパリン類似物質製剤等)の外用剤治療を行って下さい。またテトラサイクリン系薬剤(ミノマイシン等)でのざ瘡様皮膚炎の予防を考慮して下さい(目安:6週間)。

○Panitumumabの投与前及び投与中、投与終了後などに月1回程度定期的な血清電解質(マグネシウム、カリウム及びカルシウム)の測定、モニタリングを行ってください。

○Grade3以上の重度の皮膚障害が発現した場合には、Panitumumabの投与を延期し、次回以降以下の表を目安に投与量を調節して下さい。

皮膚障害発現時の投与量	本剤の投与	投与延期後の状態	用量調節
6mg/kg	投与延期	6週間以内にGrade2以下に回復	6mg/kg or 4.8mg/kg
4.8mg/kg	投与延期	6週間以内にGrade2以下に回復	3.6mg/kg
3.6mg/kg	投与中止		

注:本剤の投与にあたっては、インラインフィルター(0.2又は0.22µm)を使用する事。